

基幹労連シニアクラブ・ニュース

基幹労連退職者の会事務局

2017/06/23

第 35 号

全国各地で地方ブロック懇談会を開催



地方ブロック懇談会が全国で展開されています。5月8日の関東ブロックを皮切りに、5月10日東海ブロック、5月22日四国ブロック、6月1日近畿ブロックで開催されました。

今回は、第24回参議院議員選挙の総括や組織運営の充実、組織拡大等について意見

交換を行うとともに、基幹労連中央本部から問題提起のあった「シニアクラブの運営に関する課題と対応方向（案）」を踏まえて、基幹労連退職者の会（シニアクラブ）と県本部退職者の会との更なる連携強化を図るために実施しています。

今後の予定としては、6月26日九州ブロック、7月7日北信越ブロック、8月19日中国ブロックにおいて開催されます。（東北・北海道ブロックは日程調整中です）

組織拡大の取り組みに工夫を凝らす 関東ブロック懇談会（5/8）

5月8日（月）群馬県安中市の磯部ガーデンにおいて、東京、神奈川、千葉、茨城、群馬のOB会の代表と、関東ブロック7県本部の事務局長の14名が参加して開催されました。組織の強化・拡大に関して、少しずつ働きかけの成果が出てきていることが報告されましたが、既存の会社主導のOB会との連携の難しさの中で、どのように組織拡大を図るのか、それぞれの県本部において検討を深めているとのことでした。

政策実現の取り組みでは、それなりの手ごたえを感じながらも結果が出なかったことへの反省が示されました。現役世代の政治活動経験の不足を心配する声や、退職後まで政治活動に関わりをもちたくないというOBの現実も指摘されました。

今後のシニアクラブの運営に関しては、一気に改革を求めるより着実に充実させる方向性をめざしていくことや、全体のリード役は引き続き中央の産別役員経験者を中心に行った方が良いのではないかと、といった声が出されました。関東ブロックの県本部事務局長全員参加での初の懇談会であり、充実した意見交換ができました。



関東ブロック懇談会の参加者一同（群馬県安中市で）

地道な取り組みで組織拡大を 東海ブロック懇談会（5/10）

5月10日（水）名古屋市の「ワークライフプラザれある」において、静岡、愛知、岐阜、三重のOB会の代表と県本部事務局長の11名が参加して開催されました。

組織の強化・拡大の課題については、定年退職者の減少や退会など、難しい状況にあるいくつかの組織から報告がありました。また、県内他産別の労使で運営しているOB会組織では、元組合員の取り扱いを工夫しているとの紹介があり、こうしたいろいろな実態を調査し、参考にしながら引き続き地道な取り組みを進めていくことが確認されました。

政策実現の取り組みでは、現役組合員と連携を図って取り組んだが、産別からの議員擁立の必要性など、家族を含めて十分な理解・浸透が得られず、結果を出せなかった反省が語られました。

この懇談会をはじめ、会員相互のコミュニケーションを図りながら、更なるOB会の組織運営強化に臨む強い決意を結集する場となりました。



東海ブロック懇談会参加者一同（名古屋にて）

香川で新退職者組織結成の動き 四国ブロック懇談会 (5/22)

5月22日(月)川崎重工労組坂出支部において、愛媛、香川両県の退職者の会代表など10名が参加して開催されました。愛媛からは住重労連愛媛地本特別組合員会、香川からは川重坂出OB会の取り組みが報告されました。どちらも歴史ある組織で、OB会として充実した活動が展開されていますが、川重坂出の最近の動きとして、女性会員が行事に積極的に参加してくれているとのことでした。

県下の組織運営に関して、愛媛は、他に住友金属鉱山別子退職者連盟が活動されており、実態としては2組織での運営となっているとのことでした。香川では、三菱マテリアル直島において、今年中に退職者の会を設立すべく準備が進められているとのうれしい報告がありました。

政策実現の取り組みに関し、参議院選挙区候補が直前の野党の選挙協力によって状況が一変し、投票に行かない人が増えたとのこと。愛媛県ではOBの紹介者カード取り組みが目標を上回り、香川においても手ごたえを感じていただけに、結果に不満が残りました。

今後の組織運営のあり方については、ブロック懇談会は貴重な意見交換の場であり継続してほしいとのことでした。



四国ブロック懇談会参加者一同(香川・坂出にて)

組合員との連携で組織の強化・充実を 近畿ブロック懇談会 (6/1)

6月1日(木)大阪市において、大阪、兵庫、和歌山、京都、滋賀のOB会の代表と県本部事務局長の14名が参加して開催されました。

兵庫から川重西神戸OB会の加入、和歌山からは単組役員OBの新規加入83名が報告されました。大阪は会員から年1,000円の会費を徴収して交通費や通信費を賄っているが、この会費徴収と組織拡大との関係が難しく、悩ましいとのことでした。

政策実現の取り組みに関しては、各組織は厳しい状況下でありながらも、前回より県内得票数が増えたところもあり、更なる組織強化の必要性を相互に確認しました。また現役組合員の組合帰属意識が希薄になっていることが投票結果に表れているのではないかと懸念され、「JBU 原点運動」など日常活動の強化を指摘する声が出されました。

今後のシニアクラブ運営については、活動における財政的課題に対する要望が出されました。

最後に、現役組合員との連携を図って政策実現の取り組みや自らの福祉環境の改善に取り組んでいくことを確認しあい、有意義な懇談会を閉じました。



近畿ブロック懇談会参加者一同（大阪にて）

今こそ底上げ、底支え、格差是正の実現を！（メーデー）



「長時間労働の撲滅、ディーセント・ワークの実現。今こそ底上げ、底支え、格差是正の実現を」をスローガンに、第88回メーデー中央大会が、4月29日（土）、東京・代々木公園B地区をメイン会場に連組合員や家族、退職者連合、福祉事業団体など約4万人が参加して開かれました。わがシニアクラブからも9名が参加しました。冒頭、主催者を代表して神津連合会長（写真）から「働くことに関わる新たな常識を私たちの

の手で作る時期に来ている」と働き方改革について触れ「誰もが希望を持って働き、女も男も仕事と生活を両立できるように労働時間を最適化しなくてはならない。時間外労働の上限規制はその時間まで働かせていいというものではない。今まさに労働時間にかかわる新たな常識を作るチャンス。あらゆる場面で、組織内外へアピールしなければならない」との決意表明がありました。

シニアクラブ・地域からの便り

広島県本部退職者の会総会 県下の中核組織として諸活動に積極参画

広島県本部退職者連絡会は、6月16日(金)に広島市において第11回総会を開催しました。昨年11月の幹事会でそれまで4年間会長を勤めた中村昌俊氏(三菱広島OB会)に代わり平岡勇氏(IHI呉労友会)が会長に就任して初めての総会でしたが、各退職者組織の代表や県本部役員など60名が出席し、向こう1年間の活動方針を決定するとともに、会員相互の交流・懇親を深めました。



退職者連絡会は、広島県本部加盟の6組織・6,658名で構成され、広島県退職者連合(広退連)では自治労に次ぐ組織人員であり、平岡会長が副会長に就任するなどその中核組織として各種活動に積極的に参画しています。今後も引き続き、基幹労連広島県本部

はもとより広退連や基幹労連シニアクラブと連携をとり、年金・医療・介護等の政策課題や介護事業等地域福祉に関する課題、各種選挙に積極的に対応していくことをあらためて確認しました。

シニアクラブ総会は10月5日に開催(今後の予定)

- 7月14日(金) 日本退職者連合・第21回定期総会(連合会館)
- 7月24日(月) 基幹労連シニアクラブ・幹事会(基幹労連会議室)
- 9月7日(木)・8日(金) 基幹労連・第15回定期大会(大阪)
- 9月14日(木) 日本退職者連合・全国高齢者集会(東京都文京区)
- 10月4日(水)・5日(木) 基幹労連シニアクラブ・第6回総会(会場未定)